

## 産地内外の協業により、高付加価値素材の開発や、海外との商談に成功した繊維産地企業

愛知県一宮市のみづほ興業(株)(従業員 75 名・資本金 3,144 万円)は、1951 年創業の毛織物染色整理事業者。同社は産地内外企業の協業を主導し、高付加価値素材の開発や海外との商談に成功している。

繊維産業が低迷する 10 年前に事業を承継した現社長は、日本各地の繊維産地を回り、業界の状況に危機感を抱き、更なる高付加価値素材を開発するため、各産地との協業の必要性を感じた。そんな折、イタリアの同業者より、イタリアが世界をリードするテキスタイルやファッションを生み出してきた要因の一つとも言われている「インパナトーレ(※)」の存在を知り、4 年前にテキスタイルメーカーより企画担当の社員を招き入れてインパナトーレ事業を立ち上げた。

インパナトーレ事業により企画力や製造技術が向上し、年間 50~70 種類の素材開発に成功している。また、財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンター主催の JB(ジョイント・尾州)に参加。ヨーロッパでの展示商談会をきっかけに、当地の高級ブランドアパレルメーカーとの商談も成立している。

※インパナトーレ: イタリアの織物産地などで活躍するコーディネーターを指し、自らの企画機能を最大限に生かして、テキスタイルメーカーとアパレルメーカーの橋渡しを行い、工程ごとに最適なメーカーを選んでコーディネートする役割を担いブランドを立ち上げてきた人。

### インパナトーレ事業により開発された新素材

